

乾燥生ごみでたい肥をつくろう！

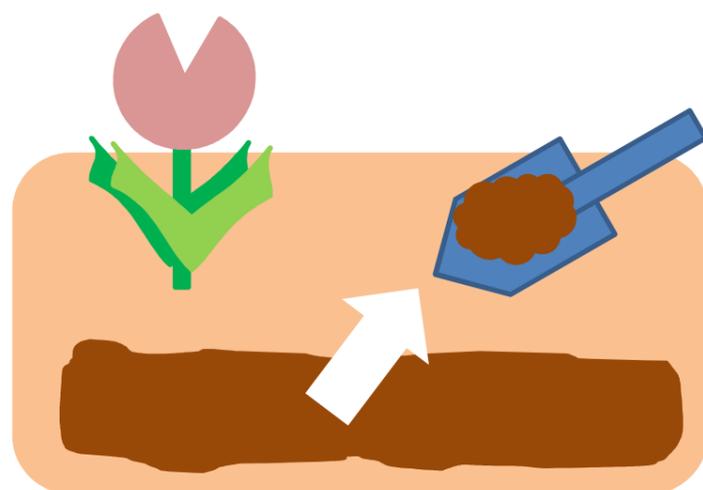
配布している乾燥生ごみは、市民の方が持ち込んだものを粉碎したもので、成分調整等は一切していません。よって、成分にバラツキがあります。

そのままでは、たい肥として利用できませんので、たい肥として利用する一例を紹介しますのでご活用下さい。

花壇等で利用する場合

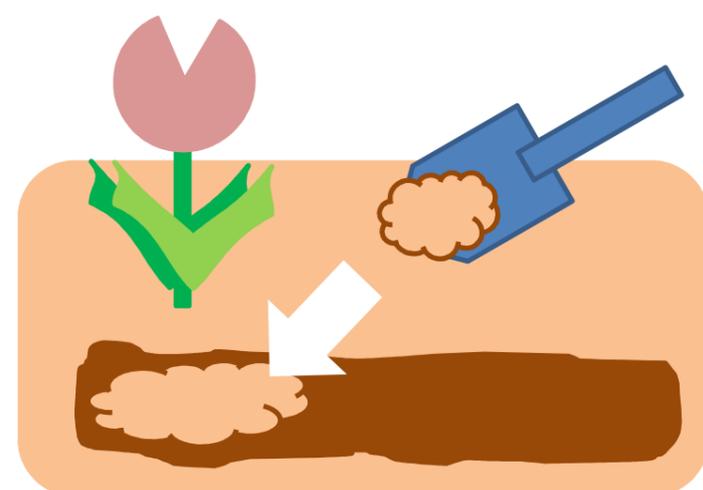
①植物のまわりの土を掘り起こします。

※根の近くは避けます。

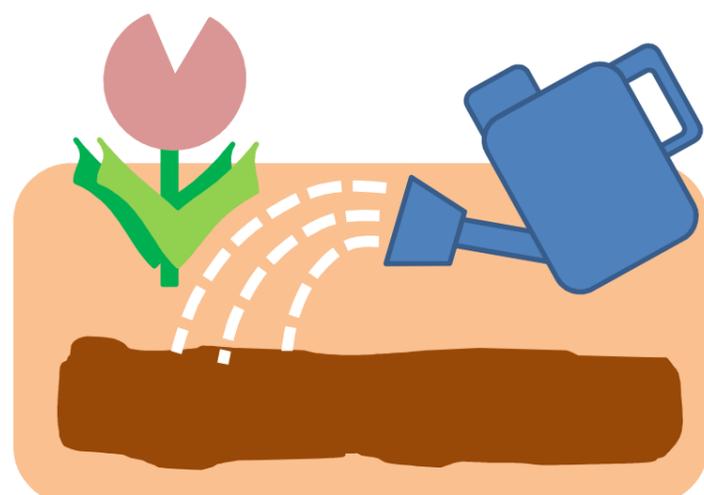


②乾燥生ごみ（有機肥料）と

掘り起こした土をよく混ぜ合わせながら入れます。



③その上に2～3cm ぐらい、土を入れ、散水します。



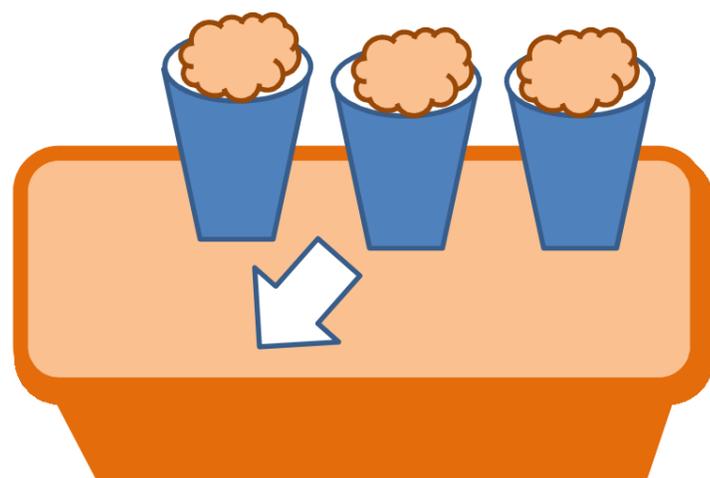
プランターでの利用方法は、裏面をご覧ください。

プランターで利用する場合

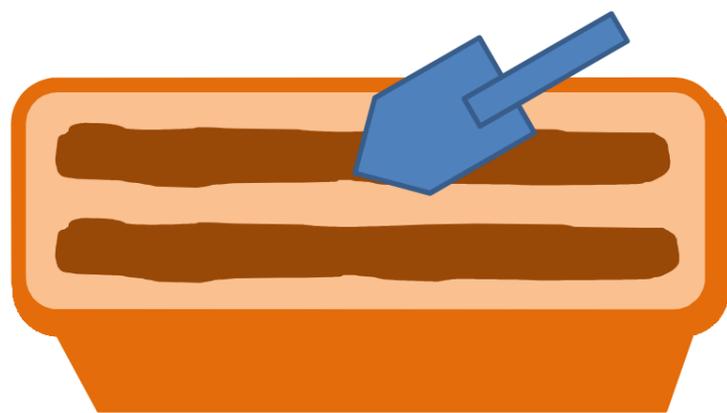
①花が咲き終えたプランターの古い根などは取り除きます。



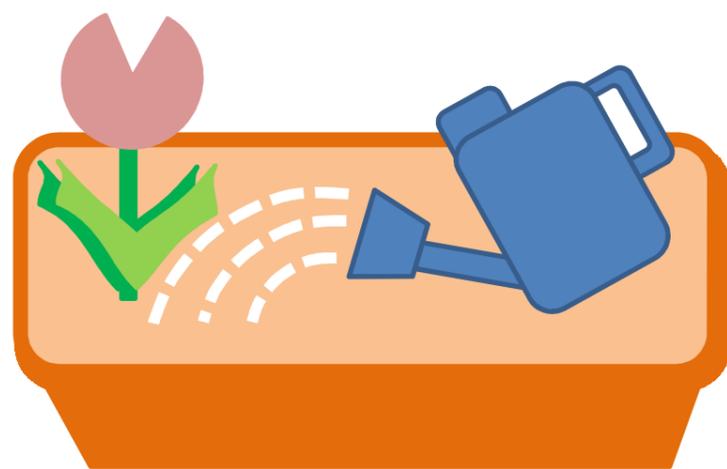
②プランターに乾燥生ごみ（有機肥料）を入れます。
※標準プランター（65×18×15cm）に約600ml（紙コップ約3杯）



③全体的によく混ぜ合わせ、2週間ほど寝かせます。



④苗を定植して散水します。
タネをまく場合は、約2～3cm覆土した上にまきます。



「有機肥料」素材について

【成分等について】

食べ残しなどに塩分などが含まれていますが、人間が食べる程度のものですから、植物に影響を与えることはありませんが、花壇等での使用をお願いします。

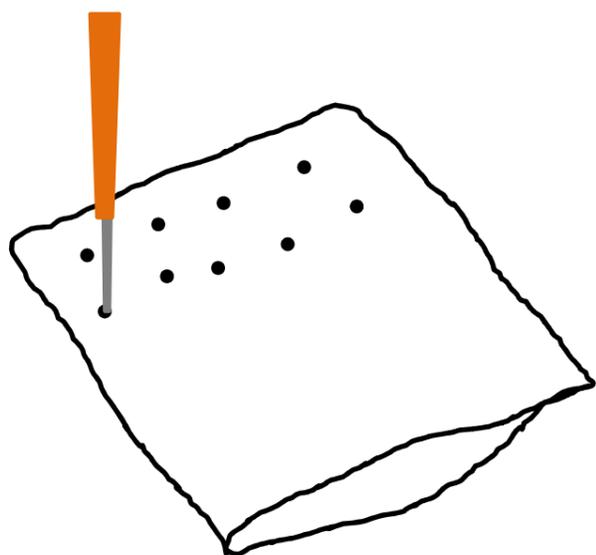
※成分検査等を行っていませんので、ご理解の上ご使用をお願いします。

【保存について】

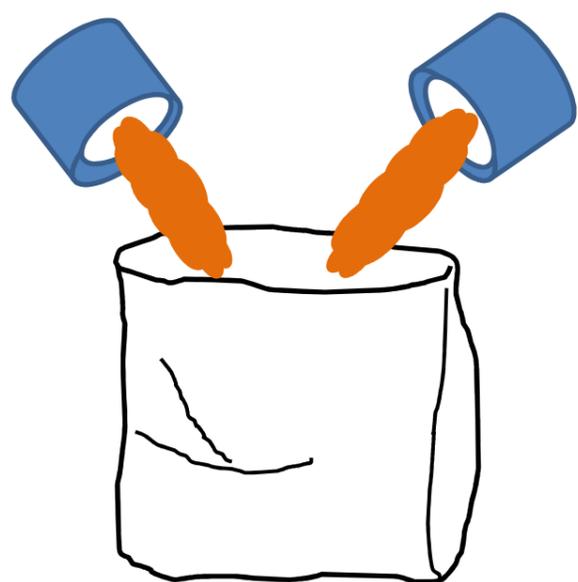
土と「有機肥料」素材（処理物）を混ぜて熟成させることで、簡単に栄養たっぷりの「完熟堆肥」を作ることができます。「完熟堆肥」を作っておくと、ガーデニングにすぐ使えて便利です。

※この資料は、乾燥式生ごみ処理機器メーカーの資料をもとに作成していますが、条件により数量及び熟成期間等が異なる場合もありますので、ご理解をお願いします。

ポリ袋などでたい肥をつくる場合



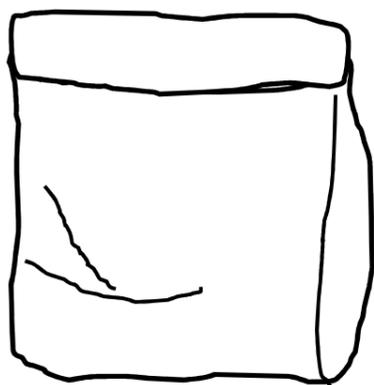
- ①ポリ袋（米袋など）を用意し、
下側に穴をあけます。
（20ヶ所程度）



- ②その中に乾燥生ごみ（有機肥料）
と腐葉土を入れ、よく混ぜます。
【体積の割合の目安】
乾燥生ごみ：腐葉土＝8：10



- ③その上から湿らす程度に、
じょうろで散水します。



- ④袋を締め、日陰で保管します。
※たい肥が完熟になる目安は、
夏場で約1ヶ月程度
冬場で約3ヶ月程度
※保管中は時々かき混ぜる。

※使用する時は、たい肥が直接、植物の根に触れないように埋める。



**生ごみも乾燥させて、
たい肥化すれば資源となります。
燃やせるごみにしない！
有効利用を！**



家庭から持ち込まれた乾燥生ごみを粉碎処理したもので、成分調整等は一切していませんので、個々の袋で成分に差があります。

ご理解のうえご使用をお願いします。

【問い合わせ先】

安城市環境部ごみゼロ推進課（清掃事業所）

電話 0566-76-3053